

第2回徳島県立農林水産総合技術支援センター外部評価委員会 会 議 次 第

日 時：平成27年10月29日（木） 13時30分～

場 所：県庁 10階 特別大会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 試験研究業務の評価

- ・平成28年度試験研究の取組みについて

(2) 課題別評価の協議

- ・教育研修業務について

4 閉 会

試験研究の取組みに係る評価について

1 評価内容

「試験研究の取組み内容と今度の方向性について」

2 主な視点

(1) ニーズの把握

- ・生産現場や市場のニーズを適切に踏まえた内容となっているか。

(2) 研究の内容

- ・新規性や創造性に富んだものか。
- ・地方創生（農林水産業の成長産業化）につながる内容となっているか。

(3) 関係機関との連携

- ・産学官それぞれの持つ強みを生かした取組みとなっているか。

3 評価様式

別紙の「試験研究の取組みに係る評価表」により、ご意見・ご提案をお願いいたします。

4 評価表の提出

(1) 提出期限

平成27年11月13日（金）

(2) 提出方法及び提出先

事務局まで郵送、メール、又はファクシミリ等でご提出ください。

試験研究の取組みに係る評価表

氏名	
----	--

1 ご意見・ご提案（平成28年度試験研究の取組みについて）

No	研究課	コメント
1	経営	
2	農産園芸	
3	資源環境	
4	畜産	
5	水産	

2 その他

--

6次産業化の拠点「アグリサイエンスゾーン」の構築

**H28
創設!**

6次産業化創出人材を育成する
「徳島大学・生物資源産業学部」



新技術開発や人材育成の拠点
「農林水産総合技術支援センター」



県下全域をフィールドとしてキャリアアップを加速

ネットワーク強化で人材育成

- ・ 生産現場や食品関連産業等での
インターンシップや**フィールド調査研究**を
コーディネート
- ・ 実践力を備えた人材を育成するため
高校教員や県・大学研究者による**PT設置**

若者を6次産業へ呼び込み

- ・ 高校に**6次産業化専門学科**の創設
- ・ 雇用の受け皿となる**農業法人**等の
基盤強化を支援
- ・ 6次産業化に取り組む若者の
海外展開を支援



高度環境制御型ハウス
(オランダ)

約**60**機関
で受入れ

目指せ!
海外展開

オープン・イノベーションを加速

大学の先端技術を実用化技術へ

- ・ **スマート農業**の推進
〔 **農業用アシストスーツ**の導入支援
農林水産現場での**ドローン**の活用
生産環境を**ICT**で**把握・制御** 〕
- ・ DNA技術等を活用した**新品種**の開発
(**レンコン**・**晩生すだち**・**医療用ブタ**など)
- ・ **新たな品目**の導入に向けた技術開発
(**菌床キクラゲ**・**ウスバアオノリ**・**ワカメ**など)
- ・ **藍の塗料**への用途を**拡大**させる技術開発
殺菌効果を活かした商品開発を支援
- ・ 輸送技術開発で**青果物の輸出**を**倍増**

LED・ICT
・**ロボット技術**
の活用



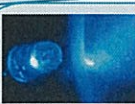
医療用ミニブタ

ブランド力
を強化

農林水産業の

「成長産業化」を加速!

本学の研究成果と取組



● LEDによる抗菌作用増強、食品の鮮度保持、植物工場への活用 (医学部、工学部)



● スダチの炎症抑制、血糖値抑制、肥満抑制作用の発見、及び生活習慣病予防サブリの開発、製品化 (医学部、薬学部、工学部)



● レンコンによる花粉症治療薬開発 (薬学部)



● 阿波晩茶の抗アレルギー作用発見 (薬学部)

● 中山間地における薬用植物の栽培 (薬学部/徳島県と連携)

医、食、農に関する

生物工学科の実績

- バイオマスの有効利用法開発
- 大豆代謝産物の骨形成促進作用
- 抗菌剤の開発
- イソプレノイド化合物の生理作用解析



マツタケ栽培研究



イチゴ光受容体の研究

学内リソース

- 医学部・歯学部・薬学部
- 酵素センター・ゲノムセンター
- 理工学部 (農学の工業化教育研究支援)

連携

自治体・企業等

- 徳島県、県下市町村
- 県立農林水産総合技術支援センター
- 県立工業技術センター
- 地元企業 (日亜化学、大塚製薬、四国化工機、日清紡)

教育 研究支援

生物資源産業学部

ヘルスサイエンス・フードサイエンス・アグリサイエンス バイオテクノロジー、アグリ・フードビジネス

- 先端バイオ、工学技術により、製品開発・事業化へ応用
- 基礎サイエンスではなく、産業を指向した人材育成
- 医学部・歯学部・薬学部・各研究センターと連携し、生物資源からのヘルスイノベーションを創造
- 理工学部と連携し、農・食・医に関わるバイオ新産業を創造

新しい人材育成モデルの創出

1次産業、食料、生命科学に関する幅広い専門知識と、生物資源の製品化、産業化に応用できる知識と技術を有し、国際的視野に立って、生物資源を活用した新たな産業の創出に貢献できる人材の養成

新しい産業の創出

- 医療用ミニブタの開発・実用化
- 漢方薬製造のための薬用植物の栽培
- 自然食品からの治療薬及び健康食品の開発
- 木質バイオマスエネルギーの開発・実用化 など



チヨウセンゴミシ (薬用植物)



経営研究課の取組み

現 状

「農業経営モデル」の構築提案

これまで7モデル策定

- ・大規模化(ニンジン)(レンコン)
- ・定年帰農(スダチ)
- ・新規就農(ニンジン)(カリフラワー)
- ・施設キュウリ(ブロッコリー)

農業経営

機械の独自開発

- ・レンコン太陽熱消毒作業の省力化
- ・商工労働観光部との連携
- ・タラとげ取り器
- ・他機関で開発した機械の評価
- ・藍収穫機、アシストスーツ

省力化・機械化

ブランド農産物の

輸出を可能にする技術開発

- ・バルクコンテナ導入効果の検討
(出荷作業の効率化の実証)
- ・流通にともなう課題の解決
(なると金時の低温障害発生機構の解明)

農産物流通

H28年度取組みの方向(案)

「農業経営モデル」の構築提案

策定予定モデル

- ・大規模化(水稻)(加工用野菜)(ブロッコリー)(砂地畑)
- ・コスト削減(肉用牛)
- ・傾斜地(多品目化)
- ・新規就農(2品目予定)
- ・販売ルート(市場・契約栽培・直売比較)
- ・特産品(藍)

もうかる農業実現への道しるべの提示

競争力のある産地づくりを推進する



徳島大学・生物資源産業学部と連携し、モデルの検証と充実化

栽培体系に応じた省力化・機械化

- ・レタス土壌還元消毒の作業体系の確立
- ・フィルム除去機の開発
- ・複数の草本類地域特産物に適應する低コスト収穫機の開発(ドクダミ、ソバ)
- ・農業用アシストスーツの活用による軽労化効果の検討

本県独自の栽培技術に対応した技術開発

省力化・機械化で生産性を高める



近畿中国四国農業研究センター、農機メーカー等

他府県、大学、メーカー

青果物の輸出を拡大させる技術開発

省力・コスト低減

- ・農産物の輸出を取り巻く流通経路の状況把握
- ・バルクコンテナによる農産物の輸送効果の検証

国内流通にも応用できる技術

農産物を最良の状態で消費者へ届ける



食品総合研究所、東京農業大学、千葉大学と共同で技術開発

鮮度保持技術

- ・イチゴの鮮度保持技術と損傷防止包装容器の検討
- ・なると金時輸送時のムレ防止可能な包装の検討
- ・なると金時の低温障害メカニズムの解明

農産園芸研究課の取組み

現 状

イチゴ・トマトの環境制御技術の開発

- ICTを活用した高軒高温室の環境特性の解明
- 環境制御システムを利用した高収量化や資源の低投入化を目指した栽培技術の実証



トマト養液栽培

産官学の連携

徳島大学・あなトマトファクトリー

藍の新産業創出につながる技術開発

- 藍の省力生産技術：簡易収穫機の改良・普及
- 効率的沈殿藍製造技術の開発
- 微生物等による色素抽出、生成効率の向上
- 藍の機能性の検討
- 殺菌成分やポリフェノール類等の機能性成分の解明



藍の簡易収穫機

本県ブランド農産物の新品種の開発

- レンコン：台風被害軽減に向けた早生品種の育成
- イチゴ：早期収量が多く病害に強い高収益性の県独自品種の育成
- ナシ：幸水、豊水に加わる主力品種の育成
- スタチ：突然変異を利用した晩生系統の選抜



「阿波すす香」

新香酸カンキツ

H28年度取組みの方向(案)

施設園芸（イチゴ・トマト）における環境制御技術の高度化

- 光量・CO2濃度・温度・湿度・水分量・肥料濃度のセンシングと制御の高度化・・・地上部環境と根域環境の統合環境制御技術の開発

春夏二シーズンに適したフィールドサーバの開発と実証

- 安価なフィールドサーバの開発とトンネル内環境モニタリングによる異常気象に対応した安定生産技術の開発



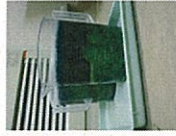
フィールドサーバ：野外用の遠隔センシング機器

藍の高効率生産・新産業創出につながる技術開発

- 藍の効率的生産技術の開発
- 色素生成に最適な環境条件、葉と茎の効率的分別方法
- 効率的沈殿藍製造技術の深化
- 微生物等による新色素抽出法の実証
- 乾燥葉を用いた新たな沈殿藍製造方法の検討
- 藍の機能性を用いた商品開発検討
- 殺菌成分とポリフェノール類等の機能成分の応用範囲



色素凝集試験：右端が無処理、右から2番目が凝集剤により色素が沈降している様子



葉から色素の抽出の様子

産官学の連携

徳島藍ジャパンフラー推進協議会、徳島大学、四国大学、京都大学

DNA技術の活用による新しい果色イチゴの作出

- ゲノム編集による新しいイチゴ果色発現の実証
- 発色遺伝子の解析による交雑親の選抜

新品種の開発と有望品目の検討

- レンコン：新品種供給体制の構築・特性の解明
- イチゴ：三次選抜7系統の品種登録可否を検討
- ナシ：幸水、豊水より熟期の遅い選抜系統の現地試験
- スタチ：晩生変異3系統の原木特性調査および複製樹の育成
- カラマンダリン：温暖化を利用した新果樹の越冬完熟栽培と5月出荷技術の開発
- アラゲキクラゲ：人工栽培技術の確立
- 「阿波すす香」：安定生産技術の開発・加工適性の検討



レンコン早生新品種



イチゴ新品種候補

徳島大学と連携

資源環境研究課の取組み

現 状

食の安全・安心を確保する研究

- マイナー作物農薬登録拡大
- シシ、タラノメ、フキノトウ等の農薬登録へ
- 輸出農産物の残留農薬分析
- 欧州基準に適合した防除モデルの構築
- 農薬の環境影響評価
- サツマイモ立枯病防除薬剤の揮発抑制
- 天敵等利用技術の開発
- LEDを活用した天敵誘引装置等を開発
- 天敵涵養植物利用技術の開発

農林水産業を支援する研究

- 鳥獣・侵入害虫等の監視強化
- 外来カミキリの生息域を調査
- シカ、サル等のモニタリング技術を開発
- 農林水産物の安定生産をサポート
- スダチ黄化症状の原因解明と対策実施
- スギコナテナ苗生産技術の開発

農林産物の付加価値を向上させる研究

- 農林産物の差別化・有利販売
- 近赤外線による「なると金時」糖度選別
- 県産材の需要開発
- 徳島すぎ大径材の利用開発
- 準不燃木材の商品化



木材利用創造センター

H28年度取組みの方向 (案)

環境に優しい防除技術開発

- 土壌伝染性病害防除技術の開発
- クロルピクリンの施用量削減



露地型土壌還元
消毒後の微生物相 大気中揮散状況を解析

侵入害虫等の防除技術開発

- 外来カミキリ防除技術の開発
- ピロキジラミ防除技術の開発
- ナシ萎縮病の解明



クビアカツヤカミキリとモモ被害木



被害が拡大中 感染経路が不明

ブランド品等の機能性表示

- みかん：β-クリプトキサンチン
- ニンジン：β-カロチン
- 山菜類：ポリフェノール



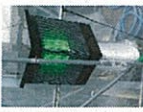
貯蔵みかん 春夏ニンジン タラノメ

天敵等利用技術の実用化

- 土着天敵を利用した栽培システム
- 微小害虫を画像処理で自動カウント



アザミウマを捕食する
ヒメハナカメムシ



LEDを利用した
天敵誘引装置

野生動物の被害管理技術開発

- 二ホンシカ生態調査と効果的被害対策
- 二ホンザル群管理技術の開発
- シカ防除試験地(つるぎ町)



次世代につなげる森林管理技術

- リモセン技術で西部の冠雪書を検査
- 南部のナラ枯病被害対策を技術支援



H26冠雪被害 (三好市) ナラ枯病を媒介する
カシナガキクイムシ

県産材を活かした建築部材の開発

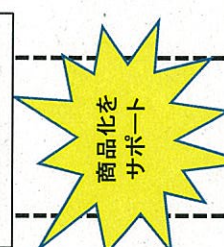
- 徳島すぎ大径材の強度・耐久性を活かした商品開発 → 消費倍増へ



大規模架構の実現
(津田海岸町)



都市圏への需要展開
(阿波おどり空港)



畜産研究課の取組み

現 状

評価技術の確立

- 阿波畜産ブランド肉の客観的評価技術の確立
- ・食味官能評価による美味しさの数値化
- ・理化学機器を用いた呈味成分、機能性の分析
- ・美味しさと理化学データとの関連解析
- 特徴(機能性、美味しさ)の客観的評価

徳島大学との連携

飼料用米給与と技術の開発

- 飼料用米を利用した鶏肉の官能特性を向上する飼料技術を開発
- ・肉用鶏への飼料用米の給与期間の検討

大学や他県の研究機関との連携

自給飼料の増産技術の開発

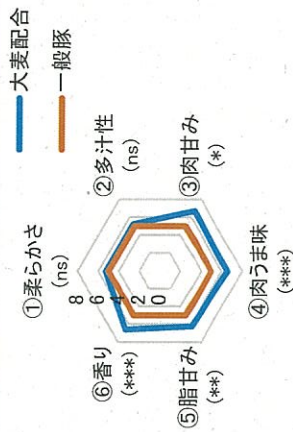
- 不耕起栽培を利用した、2年間で5回の自給飼料を生産できる栽培体系を開発
- ・温暖な気候特性を生かした2年5作体系の開発
- ・トウモロコシの不耕起栽培技術を活用

国や他県の研究機関との連携

H28年度取組みの方向 (案)

強化技術の開発

- 阿波畜産ブランドの機能性及び美味しさ強化技術の開発
- ・機能性及び美味しさ強化目標の絞り込み
- ・機能性及び美味しさ強化を図る飼養管理技術の開発 (飼料原料、配合率、給与期間等の検討)
- ・屠畜前後の環境要因と美味しさの関連性分析 (熟成による美味しさの変化、屠畜時のストレス等の検討)



飼料用米給与と技術の開発

- 飼料用米の配合割合が鶏肉の生産性及び官能特性に及ぼす影響を調査
- ・飼料用米の配合割合の検討
- 保存条件の違いが鶏肉の生産性及び官能特性に及ぼす影響を調査
- ・飼料用米の効率的な保存方法の検討

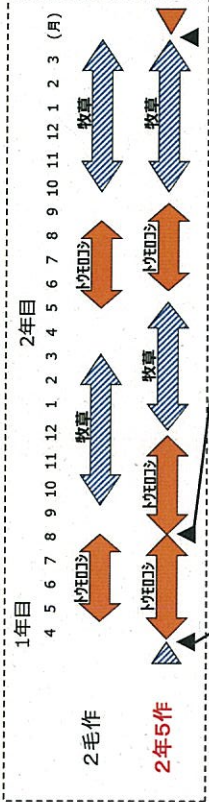


マニュアル作成

- 呈味性に優れた鶏肉生産が可能
- 安定した飼料用米の通年供給が可能

自給飼料の増産と低コスト化

- ・高能力な専用品種を比較・選定
- ・2年5作体系の増産性を評価
- ・不耕起栽培の省力・低コスト化を評価
- ・2年間の収量と生産費から研究成果を数値化



牧草収穫後に不耕起播種

トウモロコシ収穫後に不耕起播種



水産研究課の取組み

現 状

海の野菜生産技術の開発

- ・ワカメ色落ち対策技術の開発
- ・高温に対応したワカメ新品種の開発



- ・県南海域での海藻養殖技術の開発

藻場の造成・水産資源の増殖

- ・ウニの食害から守るため、砂地に自然石を単体で設置（単体藻場）



- ・アワビの種苗生産・放流など、資源増殖技術の開発

水産物の加工・流通・販売

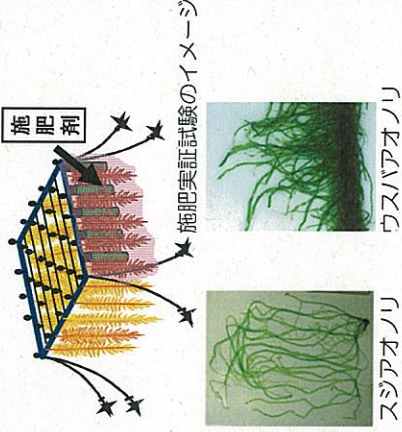
- ・アオリイカやアジアカエビの新鮮度出荷技術など、水産物の付加価値を高める技術開発
- ・芽生えワカメなどの新商品の開発



H28年度取組みの方向（案）

海の野菜生産技術の開発

- ・養殖漁場において、栄養塩供給技術の実証試験
- ・ワカメ新品種の加速度的普及
- ・高温に適応したスジアオノリ新品種の開発
- ・色落ち被害が大きいクロノリに替わるウスバアオノリの種苗生産・養殖技術開発
- ・県南における新たな品目とするため、県南海域でのワカメ新品種の開発
徳島大学との連携



次世代へつなぐ水産資源と漁場づくり

- ・単体藻場の拡大、単体礁から岩礁への藻場の拡大
- ・水質浄化や生物の成長促進に効果があるとされる「ファイババブル」を活用したアワビの種苗生産技術の開発
- ・アワビ種苗の健苗性（逃避能力等）を高める技術開発
- ・LED灯を搭載したブイに魚介類の餌となるプラנקトンなどを集める技術開発
徳島大学・阿南高专との連携



水産創生ビジョン

環境変化に対応できる競争力の高い産地づくり

- ・有利販売を目的として行いういせエビの蓄養において、リスクとなる低水温・低塩分・疾病等に対応する技術の開発
- ・アジアカエビに含まれる赤色を呈する物質の量を増加させ、付加価値を向上させる研究
- ・水産加工品の品質検査
水産研究課美波庁舎の機能強化
- ・県南での芽生えワカメ商品の開発
徳島大学との連携
水産研究課美波庁舎の機能強化
- ・海藻類の機能性成分の探索



水産創生ビジョン



LEDの活用

1 評価対象課題

教育研修業務の外部評価の課題を「研修教育の内容について」とした。

2 評価項目及び視点

次の点について課題別評価を行うとともに、教育研修業務全般について総合評価を行った。

予め設定した評価の視点は次のとおりである。

項 目		視 点
研修教育の内容 について	ニーズ把握	・カリキュラムの編成や運営は、時代に合った農業経営や多様な担い手の要望に沿っているか
	教育内容 (多様な進路に応じた人材育成、 地域農業への寄与)	・多様な進路に応じた人材の育成ができているか ・模擬会社の運営、6次産業化への取り組み、プロジェクト学習などを通じて、地域農業への寄与ができているか
	関係機関との連携	・行政、試験研究機関及び普及指導機関などとの連携は適切である

3 評価対象活動

平成27年度については、第1回外部評価委員会において、農業大学校の現状と今後の方向について説明を受けた。

4 各委員からの主な意見

(1) ニーズ把握

- ・入学者について、定員40人に対して、27年度が大幅に減少している点は、経済の動向にも依存するが、安定的な確保の方法を考える必要がある。
- ・入学生の多様なニーズに対応している。本科の入学生を増やすためには、県内高校生へのPRのさらなる活性化も必要。城西高校等、高校との連携を深められるのは良い方策だと思われる。
- ・平成27年度の本科の入学者が大きく減少していることから、農業就業目的以外に、企業等への就職実績が多数あることを周知すべきでないか。一般大学では企業名を示して就職実績をアピールしているところが多い。

- ・非農家の率が高くなっているなか農業関連企業への就職を勧めているのは良いと思う。その上で、その他企業へのアプローチを増やすのも良いと思う。
- ・農業機械（主にトラクター）についての講義・実習は自営就農もしくは農業関連企業への就職に大きなメリットとなり即戦力としての評価は高いと思われる。
- ・6次産業化の推進で、資格取得、認証、マイスターの資格等を取得し、より高い目標を目指して欲しい。これからは産地間の競争が厳しくなるので、消費者の期待に添える食品、野菜づくり、若い担い手との交流による視野の拡大に取り組み、まずは、しっかりと農産物の生産に力を注いで欲しい。
- ・学生のニーズに対し、きめ細かな対応ができており、特に進学対応カリキュラムにより、編入学試験に必要な科目の学習も充実している。また、就職希望者にはセミナーやガイダンスの実施、資格取得特別講座の開設等、マンツーマン指導により、多様な進路に応じた対応が来ている。
- ・専修学校化のPRや6次産業化による「アグリビジネススクール」からの有資格者の方や試験的に新しい技術を取り入れた農家の方の生の声をPRしたり、また、来年度から徳島大学の新しい学部が開設が予定されているので、より一層産学官が一体化し、徳島の農業の良さを発揮できるのでは。

(2) 教育内容

(多様な進路に応じた人材育成)

- ・ICTを活用した教育および実習が今後は重要になると考えられるので、その対応が必要であろう。
- ・本科に関しては入学生の多様な進路に対して懇切丁寧な指導がなされている。その結果が、1年次より2年次の満足度が高いというアンケート結果に反映されている。
- ・農業関連企業への就職が多いことから、就職先企業が専門知識を有して、即戦力の人材として採用するために、本科生のカリキュラムについて企業側との意見交換も必要ではないか。
- ・学生のニーズに対応した資格取得特別講座を開催し、資格取得を支援するという項目はとても有意義である。やはり、何にせよ資格を得ることで、就職活動を推し進める中、大きなポイントになることは間違いないはずである。
- ・多様な進路に対応すべく、活動計画、評価目標等を掲げ、日々学生の育成に努力され、進路状況では、未定他に力を注がれ減少し、農業に係わる人数が増えているのは喜ばしいことである。本年度の重点目標を地道に進めて、継続して欲しい。
- ・一年次生の段階で、進路の方向性を決める事により、早い段階から目的意識を持つ事により学習意欲の高まりにつながっている。特に個別指導が大変充実しており、「そらそうじゃ」「きのべ市」、「農業体験学習により、実践力や人間関係能力の教育にもつながっていると思う。
- ・徳島大学予定の新学部への編入枠が明確になればなお魅力的では。多方面な教育内容をマンツーマンで取り入れられた事を知り大変と思うが、他では真似できない事であり、頑張りたい。今後の農業に6次産業化は不可欠な教育と思われる。外国市場も視野に入れて。

(地域農業への寄与)

- ・日本では、定着していないが、農業コンサルタントを育成する教育内容も今後必要ではないか、検討していただきたい。
- ・本科の卒業生の進路の多くが、県内農業関係に向かっていないのは残念である。これは、農業全般が抱える問題点だと考えている。一方、研修課程のアグリビジネススクールでは、6次産業化講座、農業法人経営講座や農産加工マイスター講座を開設され、県内の農業に大きく寄与されている。
- ・学生のプロジェクト研究の一つに我が家の農業経営向上を目指すというプロジェクトがあるが、こういった取組は地域の農家でも出来ないだろうかと思われる。
- ・県内外へ多数のイベントに積極的に参加することで、現場のリアルな情報を吸収し、自分たちの活動に十分活かしていただきたい。
- ・人材育成は、どの分野においても大変ですが、農業の基本と考える。一人でも多くの人が農業の良さを知って、農業への道を開いて欲しい。ピンチもチャンスもある中で、それぞれのコースによってスキルを上げ、地域交流を大切に重点目標と課題に取り組んでいただきたい。
- ・各コース別の課題を決め取り組んでおり、加工関連講座も充実していると思う。地域の特色を踏まえた新商品の開発等により、地域資源の活用につながっていくものと思う。
- ・非農家率の高い学生さんなので、体験学習で農業経験をして頂き農の現場又将来へのやりがい等を感じて頂ければ。農大祭の盛況ぶりであらざるが、農大のPRには最高の場面と思われる。

(3) 関係機関との連携

- ・是非、徳島大学の生物資源産業学部と連携して、教育・研究を行っていただきたい。
- ・今後も、県内農業研究の基盤である「総合センター」や徳島大学生物資源産業学部などとの連携を深めていただきたい。
- ・近年、職員募集要項において4年生大学卒業を要件とした企業が多いことから、専門学校卒業者も対象とされるような働きかけを関係機関等で行う必要があるのではないか。
- ・農業青年との交流では、毎年お世話になっている。ここ最近はプロジェクト発表で決まってしまうので、何か新しいことができればということと、年2回できればもう少し色々な取組みができると思う。
- ・徳島県教育委員会、農業高校との連携を密に図り、お互いが農業へのやりがいや奥深さを学びながら、イベントや県農産物の6次産業化に取り組んでいただきたい。
- ・多くの関連機関による授業が開かれ、たくさんの人と接する機会があり、多くの情報、知識を得ることができるので、学生はこれを活かしてほしい。
- ・食品加工講座等の開設により、専門家と連携し、6次産業化の取組みが進むように期待している。徳島大学に設置予定の生物資源産業学部との連携は大変重要だと思う。
- ・専修化で大学編入者とか加工マイスター等の有資格者の増加になれば魅力的な農大になるのでは。知の拠点と学生が一緒にある徳島ならではの利点、強みをフルに発揮して欲しい。徳島大学との連携も楽しみにしている。

(4) その他

- ・ 県内高校生数の減少を考慮すると、今後本科への入学生を増やすことはさらに困難になりそうだと考えている。徳島県の農業従事者の育成を考えると、UターンやIターン者の受け入れにさらに力を注ぐことも必要かもしれない。ある程度の年齢に達した方が農業に参入する壁は高いと思われるが・・・。農業は、もうかる上に環境や生態系の保護に役立っているというイメージを拡大することも、後継者不足を解消する視点かもしれない。兼業農家のイメージが強く、農業だけでは食べていけないイメージが強すぎるのかもしれない。実際に百貨店などでの販売を体験されるのは、農業者が「売り方」を考える上で非常に良いと考えます。また、「売り方」を教えることができれば、非常に良いと思われる。
- ・ JAグループにおいても4年生大学卒業を応募資格で規定しているところが多いので、例えば営農指導員としての職員を採用する場合は、農大卒業者も応募資格に含める等検討すべきと思っている。
- ・ 我々農家が農業は楽しい、儲かるというところを見せることができれば、非農家の方も含めてもっと就農率は上がると思う。若い農家が率先できるようにがんばりたい。
- ・ 他県の情報ですが、林業において、おじいちゃんから孫への後継者ができているケースがある。徳島でも農業でこのようなケースがあるので、アピールしてみてもどうか。学校評価において、1年生よりも2年生の方が満足度を満たしている。やはり、2年生には学習に向き合う真剣さが違ってくるのだろうか。
- ・ 6次産業化を推進するため、大学教授等による農産物の加工について、基礎から販売まで体系的に学ぶ「マイスター講座」は、学生にとって大変励みになっていると思われる。先生と学生の関係は、親が子供を見守っているような印象を受ける。これからも農大の魅力をどんどん発信し、入学希望者が増えていく事を期待している。入学者の確保と就職支援について、今後共、頑張っていっていただきたい。
- ・ 農業の担い手を育てるには、大学入学だけでなく、高校入学時に将来性を見据えたコースで魅力ある農業となるようアピールできたらいいのと思う。

5 評価結果

今年度の評価項目である(1)ニーズ把握、(2)教育内容については、各委員がおおむね大学校の努力を評価している。

特に、6次産業化や農業機械の資格取得が可能な講座の開設は、多くの委員から高い評価を得た。

一方、本科入学生の定員確保は、県内高校生数の減少や経済の動向にも依存するが最も重要な課題として指摘された。

この課題解決のためには、さらなる大学校の魅力のPRや今回出された意見を参考に新たな取り組みを検討していただきたい。

(3)関係機関との連携については、来年4月に新設される徳島大学生物資源産業学部との連携を求めるコメントが多く出された。

徳島大学生物資源産業学部と研究・普及・教育の関係機関が集まる農林水産総合技術支援センターに、県内農業関係高校も加えた連携を進め、農業人材育成拠点の機能をさらに高めていただきたい。